

朝鮮語の発音と構造

——日本語との比較対照——

大 村 益 夫

(以下は1968年7月20日の講演をもとにし、それに若干手を加えたものである。)

この小論の意図は、朝鮮語を知らない日本語教育者のために、朝鮮語の発音・文字・文法等の問題について基礎知識を提供することにある。ここにあつかうのは、概念としての知識である。したがって、読者がこの小論をよんで朝鮮語に対する興味をいただき、さらに進んで朝鮮語を学習しようという意欲をわきたたせてくれたらこの上ないさいわいであるが、この小論が朝鮮語の入門書ではないことを、あらかじめおことわりしておく。思うに、つぎのようにいうことも可能かと思う。アメリカ人に日本語を教える場合、ABCさえ知らぬ日本人はいないが、最近とみにその数を増している韓国からの留学生に日本語を教える場合、朝鮮語のABCさえ知らぬ日本人が大多数であることは、大きな問題点であるといえよう。極論すれば、朝鮮人に対する一種の侮蔑観が残っているとさえいえよう。

Ⅱ 文字と音声

(1) 字 母

40の字母のうち母音が21、子音が19である。母音は、単母音10、合成母音10、重母音1という構成である。日本語にくらべて子音も母音も数が多い。また、のちにのべるように、子音と母音の組みあわせもかなり複雑であるから、実に多種多様の音をあらわすことができる。一般に朝鮮人の

外国語の発音が、日本人の外国語の発音よりもきれいなのは、ここに由来するといえる。

子 音

	音 素	音 声 ¹⁾
ㄱ	[k]	k, g, k̚ (・は内破音。内破音は実際には音声としてきこえない。)
ㄴ	[n]	n
ㄷ	[t]	t, d, t̚
ㄹ	[r]	r, l
ㅁ	[m]	m
ㅂ	[p]	p, b, p̚
ㅅ	[s]	s, ʃ, t̚
ㅇ	[ŋ]	ŋ
ㅈ	[tʃ]	tʃ, ʃ, t̚
ㅊ	[tʃʰ]	tʃʰ, t̚
ㅋ	[kʰ]	kʰ, k̚
ㅌ	[tʰ]	tʰ, t̚
ㅍ	[pʰ]	pʰ, p̚
ㅎ	[h]	h
ㄱ'	[k']	k', k̚ (' は濃音)
ㄷ'	[t']	t'
ㅂ'	[p']	p'
ㅅ'	[s']	s', t̚
ㅈ'	[tʃ']	tʃ', t̚

1) 音声と音素(音韻)にわけて考えられる。たとえば音素 /s/ は、音声 [s] と [ʃ] をもつ。日本語のサシスセンのサの子音は [s] であり、シの子音は口蓋化されて [ʃ] であるが一般に /s/ と認識されている。朝鮮語で例をあげれば、

고기(さかな, 肉) [kogi]

[k] と [g] はちがう音声であるが、朝鮮語では同じ音素としてとらえるから同じㄱを使う。

逆に日本語のㄴは、[n]/[m]/[ɲ] の音声をもつが、日本語では同一音素としてとらえる。しかし朝鮮語では三つの異った音素として厳密に区別される。

母 音

母音は子音とちがって、音価がそのまま字母の名称にもなる。

ㅏ	[a]	ㅑ	[ye]
ㅓ	[ya]	ㅕ	[ö]
ㅗ	[o]	ㅛ	[ü]
ㅛ	[yö]	ㅜ	[üi]
ㅜ	[u]	ㅟ	[wa]
ㅠ	[yu]	ㅢ	[wo]
ㅡ	[ü]	ㅤ	[wæ]
ㅣ	[i]	ㅥ	[we]
ㅚ	[æ]		
ㅜ	[yæ]		
ㅟ	[e]		

(2) 字母のくみあわせ

朝鮮語には次の7通りの字母のくみあわせかたがあり、それが複数あつまって(時には単独で)一つの単語を構成する。(以下の例は単独の場合)

- 1 母音のみ。 例 아 [a] 児
- 2 半母音+母音 例 와 [wa] ~と
- 3 子音+母音 例 나 [na] わたし
- 4 子音+半母音+母音 例 과 [kwa] 科
- 5 子音+母音+子音 例 카 [kak] 闊
- 6 子音+半母音+母音+子音 例 관 [kwan] 観
- 7 子音+母音+子音+子音 例 타 [tak] にわとり

(もっとも複雑な7の場合だと、タイプを打つ時、英文タイプ式の字母ごとのタイプを使用すれば、合計7つのキーをうたないとならない。これでは実用にならないので、実際は字母のくみあわせを一文字としたようなたとえば計のようなキーをたくさん作るほかない。そうすると、2400～

2500 字をもつタイプになってしまう。これでは不便なので英語式に字母を横にならべる試みもあるが、まだ実現にはいたっていない。）

(3) ハングルの科学性

朝鮮文字をハングル（偉大な文字という意味）あるいは訓民正音と呼ぶ。これは李朝世宗の時代に多くの学者たちが長年にわたって研究した結果、1443 年 12 月に制定し、46 年に公布されたものである。ハングルは、他国の文字をそのままねじたり作り直したりしたものでなく、朝鮮民族の独自の創意にもとづいて創造したものである。それがきわめて科学的・合理的であることによって、当時の朝鮮文化の発展ぶりをうかがい知ることができる。

ハングル創設以前は、漢字のみを使用し、一部の漢字は意味を、一部の漢字は音のみをあらわす方法が用いられた。これではいかにも不便であるし、よほどの知識がないと理解できない。ハングルは訓民正音ともいうように、元来、封建的支配者が自己の意志を国民全体に浸透させるためのものではあったが、同時にハングルの創設が朝鮮民族文化の飛躍的発展をうながしたのも事実である。

ハングルは朝鮮語の音韻体系を分析して科学的に作られている。たとえば、陽母音は、ㅏ [a] やㅗ [o] のごとく、右や上を向いており、陰母音はㅓ [ɔ] やㅜ [u] のごとく左または下を向いている。朝鮮語では母音調和の法則がはたらくから、このことは大きな意味をもつ。

複合母音についても、単母音との関係をみごとに把握して作られている。単母音ㅏ [a] に一本短い棒をつけ加えればㅑ [ya] となる。以下同様である。（ㅇは子音がなく、いきなり母音で始まることを示す）

単母音 複合母音

ㅏ [a] → ㅑ [ya]

ㅓ [ɔ] → ㅕ [yɔ]

ㅗ [o] → ㅛ [yo]

ㅜ [u] → ㅠ [yu]

単母音^ハと^イ [i] の中間に 調音点がある母音^エ [æ] は、^ハと^イをくみあ
わせた形であり、これに半母音 [y] をつけ加えると^エ [yæ] と複合母音に
なる。

^ア + ^イ → ^エ	^エ + ^イ → ^エ
[a] [i] [æ]	[æ] [i] [yæ]
^オ + ^イ → ^エ	^オ + ^イ → ^エ
[ō] [i] [e]	[e] [i] [ye]
^ウ + ^イ → ^ウ	
[u] [i] [ü]	

ハングルの科学性を証明する一つの材料として、字母の形態をあげること
ができる。朝鮮語の字母の形態は、その音が調音される器官の形態をか
たちどっている。たとえば、^ㄱは、[k] を発音する際の口腔内の 舌の位置
と形態に由来する。舌を後にひき、舌根が咽喉に接するようになる形であ
る。^ㄴは、舌を前につきだし、舌尖が硬口蓋につく形。^ㄹは、上下
唇をつけてからひき離す時の形。^ㄷは、舌の先をつきだしてせまいす
きまを作り、そこからまさつ音をだす形等々を、それぞれあらわしている。

さらに、音と音との相互関係についても、^ㄷ (t), ^ㄷ (t^h), ^ㄷ (t) とか、
^ㄹ (m), ^ㄹ (p), ^ㄹ (p^h) とか、^ㄱ (k), ^ㄱ (k^h), ^ㄱ (k') 等々、関連ある音は、
文字の形体の上でも関連があるように作られている。15世紀なかばにして
これだけ合理的な文字を創造した民族の偉大さに驚嘆せざるをえない。

ハングルが公布された際の解説文のなかにハングルをおぼえるには「賢
者は一朝も 要せず、愚者たりといえども 10 日あれば足れり」としてい
るのは、朝鮮語そのものを知っている朝鮮人にとっては十分ありうるこ
とである。解放後(日本にとっては敗戦後)南でも北でも急速に文盲が減少し
ていったのは、ハングルのたまものである。

【III】 発音上の特色

発音上の特色を網羅するのではなく日本語教育に必要な顕著な特色をい
くつかあげてみよう。

(1) 母音と母音、あるいは母音と有聲子音 (n, l, m) には含まれた無聲子音 ㄱ (k), ㄷ (t), ㅂ (p), ㅅ (tʃ) は、有聲音 (濁音) となる。

日本語では、清音と濁音の対立があるが、朝鮮語では音素としての対立はない。しかし音声としては明瞭に上記のような法則が支配している。たとえば고기 (魚、肉) という時、字母を一つずつローマ字化すれば koki となるが、実際は kogi と発音される。つまり、母音 o と母音 i の間には含まれると、k が g にかわるのである (頭音の k はそのままである)。日本語においては語中あるいは語尾にあらわれたガギグゲゴの母は鼻濁音になり、濁音にはならない。「ワタシガ」とか「テガラ」とかいう時のガは、「ガッコウ」「ガラス」のガとは違う。前者のガをカと表記すると、朝鮮語の音韻の法則にしたがって日本語を読めば、「ワタシガ」「テガラ」となり、「ワタシガ°」「テカ°ラ」という音はでてこない。この点を法則として学習者の前に提示せねばならない。朝鮮語にもひじょうに頻繁にカ°キ°ク°ケ°コ°の音があらわれるのだから、日本語の法則と朝鮮語の法則のちがいを説明すれば、濁音についての難題は解決できるはずである。

(2) 頭子音は濁音にならない。

これは一般に知られた法則である。日本人が朝鮮人を侮蔑するときに、よくこの法則をもちだすが、それはまったく根拠がない。日本人が n も m も ng も区別できずに、いちようにンだと認識していることが、日本人の劣等性を証明するものでないと同様に、朝鮮人が頭子音を濁音に発音しないのも、朝鮮人の劣等性をものがたるものではない。両国言語の音韻体系がことなるのみである。

日本語のゲタ (日本の侵略の象徴として、ゲタはそのまま朝鮮語のなかにとりいれられている) は、日本語の訓練をつんでいない朝鮮人はケダと発音するであろう。朝鮮語でゲタはその音をうつして계다 (keda) と書くが、朝鮮語の音韻体系では濁音が頭音にたたないから、geta の ge は ke となり、また母音と母音には含まれたㄷ (t) は (1) の法則により (d) に変化するから keda つまりケダになるわけである。

(3) 固有朝鮮語の語いでは、r は頭音にたたず、yö, yo, yu, i をともなう n も頭音にたたない。

語頭に r が来たり、nyo, nyö, nu, ni となる語は、漢字音か外来語である。外来語の場合ですら、r が n にかわってラジオをナジオとなり、漢字語でも, 녀자 (nyöja 女子) は예자 (yöja), 류학 (ryuhak 留学) は유학 (yuhak) というように、n や r が脱落して発音される。このような場合、綴字の上でも発音どおりに書くのが習慣化されている。

しかし、語頭以外では、n と r はつねにもとの音価をもつ。남녀 (nam-nyö 男女) の nyö, 보류 (poryu 保留) の ryu は、yö や yu にならない。

(4) 前後にくる字母によって発音は複雑に変化する。

(5) 合成語の場合、間に一瞬のポーズを置こうとするところから、発音が複雑に変化する。この (4) と (5) について、朝鮮語学習者はかなりなやまされるのであるが、ここでは触れない。

(6) 語音の長短は存在するが、それによる意味の対立はきわめて少ない。

사람 (saram 人間) とか, 없다 (öpt'a ない) という時のアンダーラインをつけた母音は長音に発音される。しかし、これを長音に発音しなくても、不自然ではあるが、「故障」と「交渉」といったように、別の意味にとられることはない。したがって朝鮮人が日本語をまなぶ場合、長音短音の区別は、そう簡単なことではない。

朝鮮語の長音は低く、短音は高い。人によっては高低アクセントとしてとらえるゆえんである。長音・短音による意味の対立をもたらす単語は、朝鮮語のなかで 20 くらいしかない。そのうちよく使われるものはせいぜい 7~8 語である。

	長音	短音
눈	nun 雪	目
밤	pam くり	夜
말	mal ことば	ウマ
밭	pöl ハチ	野

(7) 単語アクセント, 文章アクセント。

単語アクセントについては, 나무 (namu 木), 처음 (tʃʰöüm 始めて) など, 第一音節にアクセントがあるもの, 아버지 (aböji おとうさん), 어머니 (ömöni おかあさん) のように中間音節にアクセントがあるもの, 나라 (nara 国), 여덟 (yödöl 八つ) のように最終音節にアクセントがあるものなどにわけられるが, 朝鮮人はもちろん自覚して発音しているわけではない。日本語教育の場合も, 初期のうちからアクセントの位置をうるさくいうのは, 百害あって一利ないであろう。

(8) 漢字は一字一音が原則である。

朝鮮語のなかにはかなりの漢字がとりいれられているが一つの漢字を, 音と訓で読むというようなことはない。いわば音だけしかない。音は一字一音が原則だが, その原則をやぶるものが漢字数でいうと 20 から 30 ある。これは, 漢音・呉音といったような対立ではなく, 元来外来語である漢字語が朝鮮語に摂取され使用されている間に变化したものや, 意味上の相違によって異なる音をもつものなどである。前者の例をあげれば「不得不」(～せざるをえない) の音は 불득불 (pultükpul) とならず, 부득불 (putükpul) となる。불 (pul) が語頭につく単語において, そのあとにㄷ (t), 스 (tʃ) がくると, ㅁ (l) が脱落するのである。後者の例をあげれば「金」は, 人の姓の場合は김 (kim), 金銀の金の場合は금 (küm) と発音される。

(9) 漢字音は日本語漢字音との対応関係がある。

明確な対応関係は入声語尾の k, t, p である。日本語の漢字音のクは, 朝鮮語の内破音の k, 日本語のツは, 朝鮮語の l, 日本語の 旧かなづかいによるフは, 朝鮮語の日と対応関係をもつ。

k	学	ガク	학	hak
	約	ヤク	약	yak
t	月	ゲツ, ガツ	월	wol
	活	カツ	활	hwal
p	合	ガフ	합	hap
	協	ケフ	협	hyöp

次に、朝鮮語でㅇ (ng) で終る漢字は、日本語ではイまたはウで終り、朝鮮語でㄴ (n) またはㄹ (m) で終る漢字は日本語ではンで終る。たとえば「京」「相」は朝鮮音では kyōng, sang, 日本語では「ケイ」「ソウ」であり、「山」「三」は朝鮮音では san, sam, 日本音ではサンである。この対応関係は5~6字の例外を除いて普遍的である。

[III] 文 法

朝鮮語の文章構造は日本語にきわめて近い。語の配列も似ている(否定の副詞が動詞の前にくることがあるが)。体言に助詞がついて他の語との関係を示すことも同じである。朝鮮人にとって日本語の構造はとらえやすいことは事実である。「これは鉛筆である。」を朝鮮語では “Igösun yōn pilida.” という。i は「これ」「この」という近距離のものをさす指示代名詞。gös は不完全名詞で「もの」の意。un は助詞で「は」に相当する。yōnpil は「鉛筆」という漢字語いをそのまま朝鮮音であらわしており、da は終結の助詞で日本語の「だ」「である」にあたる。したがって Igösun yōnpilida. を上からそのまま訳していけば、「このものは鉛筆である」ということになる。日本人が朝鮮語をならい、朝鮮人が日本語をならうのは、他の外国語よりも初歩の段階は比較的抵抗なく対象に迫れるのは事実である。しかし、容易であるということにはならない。外国語のむずかしさは何語においても実に無限である。

「一つ一つの単語を直訳して行けば、そのまま日本文になる。ところが、小説などはハングルばかりで書かれるから、よほど朝鮮語の力がないと読めない。…学問上の書物もハングルばかりで書かれたら、日本の学者は近づき難いものとなるだろう。漢字が国際的なコミュニケーションの道具となるよい例だ。」

服部四郎先生が「文学」1968年2月号に「一言語学者の見た隣国」と題して執筆された文章の一節である。先生の文は別に学術論文ではないし、読者に、韓国に対する近親感をいだかせる目的から両国言語の近似性

を強調されたのであろうが、わたしはやはりいくつかの疑問をいだかざるをえない。

第1に、漢字で書かれていると容易で、ハングルで書かれているとむずかしいというのは迷信である。漢字で書かれればやさしいというなら、中国語は世界一やさしい言語のはずである。漢字語が多いか少ないかによって難易がわかるというなら、一つの意見としてありうる。しかし、わたしは漢字語を漢字で表記しようとハングルで表記しようと難易度には関係ないと思う。

第2に、一つ一つの単語を直訳していても、そのまま日本語になることもあるが、そうでない場合もまたたいへん多い。

第3に、朝鮮語の漢字語いと日本語の漢字語いは同一の意味内容と用法をもつものもあるが、そうでない場合の方が多い、漢字が国際的なコミュニケーションを妨げることさえあるということも指摘しておかねばならないだろう。

まして発想方法や表現にいたっては、かなりの相違がある。

かんたんな例を二、三あげよう。「(あけまして)おめでとうございます」を、朝鮮語では“過歲安寧 hasimnikka?”という。年をすごすにあたってつつがなかったでしょうか、という問いがあいさつのことばとして定着しているのである。Muli an dūrō kanda. は上から直訳すれば「水がないはいっていく」ということになる。これは「色づかない」という意味である。

朝鮮語の人称代名詞には男性女性の区別がない。(しかし文中の他の要素で容易にみわけがつく。)

複数をあらわす助詞 *tul* は、人間以外の事物を表わす名詞にもつく。また *tul* がつかなくても複数をあらわすことがある。時には副詞や動詞にも *tul* がつく。動詞につけばその動作が複数の主体によって行なわれたことを示す。

数詞には、日本語のように、一、二、三と、ひとつ、ふたつ、みっつと

いった二通りの数えかたがある。

敬語は日本語以上に複雑である。人により階称を3段階から5段階にわけける。敬老精神はことばの上にみごとに反映されている。自分の父親について他人に話す時でも「わたしのおとうさまが」といった表現をとる。男女、年齢、身分などの別によりことばはかなりちがう。方言のちがいも日本以上に大きい。

助詞の種類はひじょうに多く、人によっては500余とかぞえる。朝鮮語学習者をなやませるのは、この助詞と、ついで副詞の多様さであろう。²⁾

助詞のなかでもっとも単純なのは格助詞である。

日本語の主格助詞「ガ」には、i または ka が相当する。(前の体言が子音で終わる時は i を用い、母音で終わる時は ka を用いる)。「ハ」には ün または nun が応ずる。(前の語が子音で終われば ün, ば母音で終われば nün)。ka と nün の使いわけは、日本語の「ガ」と「ハ」の使いわけに近いが必ずしも同じではない。

属格「ノ」に応ずるには üi がある。ただし üi は名詞にはさまれた場合省略されることが多い。

対格「を」には、ül または rül が応ずる(前の体言が子音で終われば ül, 母音で終われば rul)。

位格「ニ」には e, esö が対応し、造格「で」「へ」には ro または üro が対応する。

以上、格助詞にはそれぞれ対応関係があることはあきらかである。しかし、くりかえすように決してイコールではない。

「春になる」という時、朝鮮語では「春が(i)なる」という表現をとり、「祖国のために」という時、「祖国を(ül)のために」という形をとり、「車にのる」は「車を(rül)のる」といい、「酒が好き」は「酒を(rül)このむ」という形をとる。

2) 日本語では「にこにこ」(笑う)としか訳しようがない副詞が、朝鮮語では10数種類ある。論者によっては、朝鮮語語いの5割近くは副詞であるという。

動詞には、原型、現在形、過去形、未来形がある。動詞の語幹と語尾の間に時称をあらわす助詞を入れればよい。過去の助詞は三種類あるが、動詞語幹の母音によってどれを選択するかが決定される。

もっとも現在形が必ず現在の事象をあらわし、未来形が絶対的に未来の事象をあらわすのではない。朝鮮語では、一部の不完全名詞につながる時は、時称のいかんにかかわらずつねに未来形をとる。

補助動詞～てしまう、～てみる、～ておく、～てあげる、～てもらう、～ていく、～てくる等々に相当する用法はごくふつうにみられる形であり、朝鮮人には理解しやすいであろう。

形容詞にも現在形、未来形、過去形がある。原型は動詞とちがって現在形と同じ形をとる。

[IV] 語 い

語順や文章構造には大幅の類似点をもちながらも、語いになると、固有朝鮮語と日本語の語いとの対応関係はほとんどない。よく kudu (くつ), kama (釜), nara (くに——奈良) などの例がひかれるが、全語い中 20 や 30 の類似する語がみつかったからといって、上代の共通語から朝鮮語と日本語に分化したとみることはできない。上記のような例は、むしろいずれかの国の——おそらくは日本の——輸入語であろう。

漢字語いの影響は大きい。耳できいてもすぐには理解できない漢字語を、固有朝鮮語におきかえる——たとえば「緑肥」を「みどりのこやし」といいかえるような——試みがなされても、漢字はその造語能力の豊かさから、辞書のなかでかなりの比重を占めてしまっている。全語い中に占める漢字語の割合は、人により 5 割とも 6 割とも 7 割ともいわれるが、日常生活のなかで使用される頻度数を計算すれば、20～30% であろうと推定される。もっとも何を漢字語と認定するか、その基準を確定するのは容易

なわぎではない。³⁾

[V] 漢字と漢字政策

朝鮮民主主義人民共和国では、1949 年以來、日常書写生活において漢字を全廃している。特殊な歴史書や古典以外は、すべて漢字を使っていない。漢字は支配者の所有物であり、非人民的存在であるとされている。

大韓民国においても漢字を縮少ししだいに廃止する方向にむかっている。現在、日本の文部省にあたる文教部は、1300 字を選定し、漢字の使用をできるだけこの範囲にかぎるよう指導している。ということは、逆にいえば日本に留学するほどの韓国学生は最低この 1300 字を学校教育のなかで学んできているということである。

日本の当用漢字と比較すると、当用漢字に含まれていない漢字で 1300 字中に収録されているのは次の 28 字である。

頃, 旦, 檀, 沓, 聯, 栗, 李, 梨, 苙, 勿, 朴, 弗, 蔬, 亦, 云, 邑, 紵, 鍾, 讚, 綴, 畢, 函, 韓, 鶴, 懸, 或, 靴, 輿

1300 から 28 字をひいた 1282 字は日韓共通ということになる。このことの意味は大きい。

しかしながら、もちろん字体の相違(韓国は多く旧字体使用), 日韓両国の

3) 朝鮮人が一般に漢字語とっていないものが実は漢字語であったり、漢字をあてはめて書いていても、実は固有朝鮮語であったりする。(1) 歴史的には漢字語であったが現在一般には漢字語として意識されていない例をあげれば, 김승 (tjims-ŭng けもの) は「衆生」(중생 tjungsæng) からの転化であり, 광 (kwang そうこ) は「庫房」(구방 kubang) からの転化であり, 조용하다 (tjoyonghada 静かだ) は「從容하다」(종용하다 tjongyonghada) からの転化である。(2) 中国語ではないが漢字語とみなされているものには, 「豆満江」(女真語) 浪漫(英語) などがある。(3) 朝鮮語に溶けこんで発音まで変化したり, 朝鮮語と結合して漢字語と認識されていないものには 나사 (nasa 「螺絲」より変化), 외롭다 üiropta (正しい, 외は義, 몸다 は固有朝鮮語の形容詞語尾の一), 성냥 (マッチ, 「石磺黃」の漢字音 석황에서 성냥 왕, 성냥왕, 最後に 성냥と変化) などがあり, (4) わざわざむずかしい漢字をかかなくても十分意味がわかり, またふだんから漢字で書かない語には, 모습 (貌襲 mosŭp 姿), 지금 (至今 tjiğŭm 今), 심지어 (甚至於 jimjŏ ひいては) などがある。

漢字の意味上のズレなどを考慮しなければならないのはいうまでもない。⁴⁾

韓国では1972年までに漢字を全廃する方針をうちだしている。計画によれば1969年までは1300字の使用を許し、以後漸次削減して72年には全廃してハングル専用にするという。法令文は72年まで、意味の伝達に混乱がおきるものに限ってカッコ内に漢字の使用を残すことにし、各級教科書も漢字を段階的に減らし、73年度からはハングル専用にする。戸籍、登記、住民登録の漢字も廃止し、70年からハングル専用にする。ただし、学術用語や専門用語による出版物は、やむをえない時に限って漢字を併用し、そこに代置した用語がなれた時にはハングル専用にする、というクッションを置くようである。

これに対し文芸界、学術界、出版界などが強い反発を示している。1968年5月3日の「京亜日報」(韓国の代表的新聞)は社説で政府の性急な漢字全廃方針に反対している。

いずれにしろ漢字の使用が縮小されていく傾向は否定できず、漢字をほとんど知らない韓国留学生に接する時期がやがて来るであろう。

[VI] 日本語教育の意味

朝鮮人に対し日本語教育をする場合、他の外国人に対する日本語教育とはことなった条件がある。それは、日本と朝鮮の近代100年の歴史が規定づけるものである。われわれは、単に教授者の善意だけに頼ってはならず、それが客観的にもつ意味を考慮しなければならない。わたしは特定の主張を展開しようとは思わず、また朝鮮における日本語教育の歴史を系統だって論述しようとするものでもない。ただ、若干の歴史的事実を紹介するにとどめたい。そのことが、日本語教育者に欠くべからざる知識だと思うからである。

4) 字体の問題に関連して同音の漢字による書きかえの問題がある。当用漢字は、辨、辯、辦を弁に統一し、劃、畫を画に統一し、贊、讚を賛に統一しているが文教部制限1300漢字には、辯があつて辦、辨はなく、劃、畫、贊、讚はともにある

一部韓国留学生のなかには、日本語を学習することに一種のコンプレックスを抱いている者がいる。「外国語をならうにことかいて、何も日本語をやらなくても——」という社会的圧迫が無言のうちにあるからである。それは故ないことではない。

「日韓併合」の翌年、1911年には、普通学校(4年制。小学校にあたる)、高等普通学校、各種実業学校で日本語教育を始めている。台湾の日本語教育は植民地の行政に役だつ日本語がわかる者を養成するのが目的であったが、朝鮮における日本語教育は、最初から一般教育として、しかも「国語」として日本語をおしつけたのである。この「国語」教育は他のどの教科よりも優先し、1938年には普通学校で毎週、総授業数の4割にあたる時間を配当している。1938年改正の小学校規程の教授上の注意には「国語を習得せしめその使用を正確にし、応用を自在ならしめ、国語教育の徹底を期し、以って皇国臣民たるの性格を涵養せんこと」と示されている。⁵⁾

日本は朝鮮の国土をうばい、ついで民族言語を抹殺しようとはかった。普通学校の教育は日本語によって行なわれ、すべての刊行物が日本語でなければ許可されない事態にまでたらいだった。1939年には日本式に姓名を改める「創氏改名」まで強制し、「皇国臣民の誓詞」を暗記させ、宮城遙拝をしい、あげくのはては徴用徴兵にまでかりだした。現在30代なかば以上の朝鮮人は、このような状況のなかで日本語をおぼえさせられたのであるから、「外国語をならうにことかいて何も日本語をやらなくても——」という意識をいただくわけである。

こうした日本語教育の伝統を否定しるには、われわれ日本人が、いまだ日本語教育の歴史をふりかえる必要があると思う。

5) 普通学校低学年では、「普通学校用かなづかい」を定めて、表音式のかなづかいを採用した。教授法における直接法と表音式かなづかいは、中国、朝鮮、東南アジア等、日本の占領地区での日本語教育に採用された。漢字制限や表音式かなづかいで、戦後一貫して文部省が学者研究者よりも急進的であった一つの理由は、戦前、戦中の海外での日本語教育の伝統にあるといえる。

[参 考]

最後に朝鮮語の文章を二例あげて読者の便に供したい。()内は漢字語を漢字に直したものである。朝鮮文字の下は朝鮮語を音表化したものであり、その下の日本語は逐語訳である。逐語訳で通じないところは [] に訳語を添えた。

例文 1

봄이 되었습니다. 먼 산(山)에는 아지랑이가 끼고,
Pomi tōyōtsūmnida. Mōn sanenūn ajirangiga kkigo
はるが[に]なりました。とおい山にはかげろうが いっぱいで
종달새는 봄노래를 부릅니다. 풀과 나무는
tʃongdalsænūn pomnorærul purūmnida Phulgwa namunūn
ひばりは はる[の]うたを うたいます。くさと きは
새파랑계 물이 들었습니다.
səpharahke muri tūrōtsūmnida.
まっさおに みずが はいりました。[色づきました]

例文 2

처음에 안협집이 동리(洞里)에 오자 그 동리(洞里)
Tʃhōūme Anhyōpjibi tongni e oja kū tongni
はじめに アンヒョプジビが 村 にくると、その 村の
계집들은 모두 석경(石鏡)을 들여다보게 되었다.
kyejipŭrūn modu sōkkyōngŭl tūlyōdaboge dōyōtta.
女たちは みな 鏡を のぞきこむように なった。
안협집이 바룩 몸은 그리 귀(貴)하게 태어나지
Anhyōpjibi pirok momūn kŭri kūhage thæonaji
アンヒョプジビが たとえ 身は そう 貴く うまれ
못하였으나 인물(人物)이 고운 점(点)이 있어,
mothayōssūna inmuri koun tʃōmi issō
られなかったにしても かおつきが うつくしい 点が あり
동리(洞里) 젊은 것들이 암연(黯然)히 부러워도 하고
tongni tʃōlmūn kōttŭli amyōnhi purōwodo hago
村[の] わかい ものちたが ひそかに うらやましくも おもい
질투(嫉妬)도 하게 되고... 지금(至今)까지 「나만 한
tʃilthudo hage tō go tʃikūmkkaji namanhan
嫉妬も するように なり... いままで わたしほどの

얼굴이면」하는	자만심(自滿心)이	있던	젊은	계집들에게
ölğulimyön hanün	tʃamanʃimi	itdön	tʃölmün	kycjipdülege
かおならば[と]いう	うぬぼれが	あった	わかい	女たちに
가엿게도	자가결함(自家缺陷)이	폭로(暴露)되는	환멸(幻滅)	
kayötkedo	tʃagagyölhami	phongno dönün	hwanmyölül	
あわれにも	じぶんの欠かんが	暴露される	幻滅	
을...				
...				
を...				

「石鏡」がカガミ, 「人物」がカオツキという意味で使われているのは注意してよいだろう。社会科学の論文などになれば, 漢字語はさらに増える。

日本語と朝鮮語の比較照対については, すでになりの研究者が, 試みている。ここにいちいち参考文献をあげないが, それら参考文献のリストを含む単行本を2冊あげておく。

小倉進平著, 河野六郎補注「増訂補注朝鮮語学史」1964 刀江書院
金允経「朝鮮文字及語学史」1946 第三版 ソウル震学出版協会

後者は朝鮮語による著作であるが, 参考文献リストの部分は, 日本語の文献は日本語のままで収録している。